

地域と大学を結ぶ広報誌

城西

創立50周年

Vol. 14
2015.10

増刊号





ニュース

50周年を彩る さまざまなイベント

誇りを持って明るい未来への懸け橋に

平成27年度
秋季入学式・秋季学位記授与式・卒業証書授与式を挙行



 城西大学
 城西短期大学



アジア・サマー・プログラム 9カ国約150人の学生が参加

02 [ニュース] 誇りを持って 明るい未来への懸け橋に 平成27年度 秋季入学式／ 秋季学位記授与式・卒業証書授与式

04 [ニュース] 50周年を彩るさまざまなイベント エズラ・F・ヴォーゲル氏講演会 クリストフ・マルケ氏講演会 アジア・サマー・プログラム

06 小林誠氏講演会 「反物質—素粒子から宇宙まで—」 鈴木敏夫氏講演会 「日本から世界に広がるアニメ」

07 米倉弘昌氏講演会 「民間の力で日本経済の再生・復活を」 日本・スロヴェニア シンポジウム開催

09 [シリーズ] 先輩訪問 しおさいワーズ取締役人材育成部長 渡辺 睦さん

11 [展覧会] 森洋子さん挿絵原画展 [シリーズ] 浮世絵

12 [シリーズ] 学生瓦版ワイド 学内外で活躍する城西人たち

14 [図書館だより] [ニュース]

15 [エリア紹介] 鶴ヶ島市 人と地域を結ぶ「鶴ヶ島産業まつり」 毛呂山町 五感で楽しむ 毛呂山町の収穫祭 東武線沿線情報 和紙のふるさと小川町へは東武東上線で

題字：創立者 水田三喜男 先生

今号の表紙 アジア地域をけん引する人材の育成を目的にスタートした「アジア・サマー・プログラム」(2012年～)も4年目になりました。今年は坂戸キャンパスと城西国際大学の東金、安房キャンパスで、9カ国約150人の学生たちが生活を共にして学びました。異なる文化・価値観の理解が深まり、国際感覚を持った人材の育成につながっています。



ニュース

誇りを持って明るい未来への懸け橋に

秋季入学式

2015.9.14

人間関係と友情を 培って素晴らしい将来を

今年度の秋季入学式は2015年9月14日、清光ホールで執り行われました。新たに城西に仲間入りしたのは、中国、マレーシア、韓国、ハンガリー、ポーランド、チェコ、スロヴァキア、スリランカ、ベトナム、バングラデシュの10カ国79人。

式辞で水田宗子理事長は「皆さんは異国に一人て来た、肩書きのない一人の若者です。ここで培った人間関係、友情が将来、かけがえのないものとなります。この坂戸の地で過ごす時間は、きっと素晴らしいものを与えてくれると確認しています」と、留学生たちに呼びかけました。また、森本雅憲学長は「皆さんは建学50年目に、この大学の長い歴史の人脈に加わる入学生。グローバルな世界で必要とされる語学力の向上に努め、限られた期間を充実したものにしてほしい」と告辞を述べました。



式辞を述べる水田理事長

駐日スロヴァキア大使館のプラニスラヴ・ポハバー等書記官らの方々が来賓の祝辞を述べました。

新入学生が紹介された後、中国の大連外国語大学からの留学生、韓慧さん(現代政策学部)が新入生を代表して「城西



宣誓する韓慧さん

大学と私たちの国々が、ますます強い絆で結ばれるよう、懸け橋となるべく努力していく」と誓いの言葉を述べました。

秋季学位記授与式・卒業証書授与式

2015.8.29

特別な年の卒業生であることを心に



答辞を述べる郭盈汐さん

入学式に先立ち、2015年8月29日に秋季学位記授与式・卒業証書授与式が清光ホールで執り行われました。この日、城西を巣立ったのは留学生35人を含む103人。博士や学士、別科の代表者に森本雅憲学長から学位記や卒業証書が手渡されました。式辞で水田宗子理事長は「50周年の特別な年の卒業生であることを心にとめ、良い思い出にしてほしい」と呼びかけ、「皆さんはこの城西でつづいた絆を大切に、元気よく社会に出てほしい」とはなむけの言葉を贈りました。坂戸市の石川清市長や昨年、姉妹校提携を結んだパリ東大学のエリック・ハツラー教授(城西国際大学特別客員教授)、同窓会の鈴木文雄会長の来賓祝辞に続き、卒業生を代表して郭盈汐さん(経営学部)が「留学生の中には、就職で頑張っている人、引き続き学業に励んでいる人もいます。城西大学の卒業生であることの誇りを持ち、明るい未来に向かって広く社会に貢献したい」と答辞を述べました。

水田三喜男記念館展示室オープン

2015.7.1

オープニング・セレモニーに600人

総合体育館の学生ホールを整備した「水田三喜男記念館展示室」は2015年7月1日にオープンしました。

オープニング・セレモニーには、ゲオルギ・ヴァシレフ駐日ブルガリア大使夫妻や石川清・坂戸市長、石橋清孝・千葉県議会議員をはじめ、城西大学と城西国際大学(千葉県東金市)の地元の自治体関係者や地域の方々、教職員や学生ら約600人が参加しました。水田理事長は挨拶で「創立者は明治の志を持ち、教育を信じて、社会のため国のため、さらには国際社会のために貢献していく人材を育てることが自分の任務と考え、亡くなるまで力を入れてきました」と水田三喜男先生の業績に触れ、「仮の展示ではありますが、今日だけでなくまた、坂戸のキャンパスに足をお運びいただきたい」と述べました。

展示室は約160平方メートル。「水田三喜男の原風景」「焼野原からの復興」「城西大学の創設」の3コーナーに映像エリアが設けられ、パネル展示のほか、勲一等旭日大綬章や各国からの勲章、銀壺、大臣名札、執務机や、碁盤、すずり石、大礼服などまで、ゆかりの品々を含め約130点を展示しています。また、映像エリアでは創立者の生い立ちから業績、ならびに本学の発展の歴史を映像で見ることができます。展示に際しては、創立者の出身地でゆかりの品々を収蔵・展示している鴨川郷土資料館の協力を受けました。



多くの方が内覧しました



三喜男先生の執務机や大礼服

お知らせ 水田三喜男記念館・新薬学部棟 起工式

2015.10.6

2017年に完成予定

創立50周年記念事業の大きな目玉である水田三喜男記念館と新薬学部棟の起工式が2015年10月6日、執り行われました。地鎮祭が行われ、工事の無事を祈願しました。

両施設とも米カリフォルニア大学ロサンゼルス校の阿部仁史先生と久米設計が設計監理し、施工は大林組。2017年3月の完成を目指します。

水田三喜男記念館は、2階建て延べ1800平方メートル。7月1日に総合体育館に仮オープンした展示室のほか、各国からの要人を含むVIPを迎えるゲストエリア、レセプションワークショップなど多様な活動を行うための多目的ラウンジを備え、国際教育や地域連携の拠点となるものです。

また、新薬学部棟は地下1階、地上9階建てで延べ1万1500平方メートル。アイソトープセンターと現在の6号館のあるほとんどの機能を担います。最先端の実験室や研究室を備えます。



新薬学部棟の外観イメージ

50周年を彩るさまざまなイベント

エズラ・F・ヴォーゲル氏講演会

2015.6.13

「東アジア:これからの50年」

米ハーバード大学名誉教授のエズラ・F・ヴォーゲル氏を招いた講演会「東アジア:これからの50年」が2015年6月13日、清光ホールで開かれました。5月21日の元マレーシア首相のマハティール・ビン・モハンマド氏に次ぐ、水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズの第2弾で、講演会を記念して、本学はヴォーゲル氏に名誉博士号を贈りました。

ヴォーゲル氏は、1958年にハーバード大学で博士号(社会学)を取得後、日本語と日本の家族関係の研究のために来日して2年間滞在しました。1972年に同大の東アジア研究所長に就任。日本でベストセラーとなった「ジャパン・アズ・ナンバーワン」を1979年に発表しました。

水田理事長は挨拶で「日本研究だけでなく、この地域の平和と繁栄のために欠くことのできない学術、研究上の貢献をされた」とヴォーゲル氏の業績をたたえました。講演会でヴォーゲル氏は、今後の東アジアを展望するポイントとして「経済成長の継続」「環境問題の悪化」「国際交流の拡大」を挙げました。そのうえで、アメリ

カは「中国と環境問題で協力しなければならない」と指摘。経済成長を遂げ近隣諸国と摩擦を起こしている中国に対しては「低姿勢の外交政策を取るべきだ」と提言しました。また、日本については「もっと自然な英語を学ぶ必要がある」と述べて会場の笑いを誘った後、韓国を念頭に「隣の国と仲良くするためにもう少し我慢する必要がある。国の代表は思いやりと責任感を」と結びました。ヴォーゲル氏は、「少子高齢化時代に若い世代は何をすべきか」などとの学生の質問にも丁寧にお答えになりました。



講演するヴォーゲル氏



ヴォーゲル氏に名誉博士号を贈りました

アジア・サマー・プログラム

2015.7.7~7.28

9カ国約150人の学生が参加

アジア圏の学生たちが生活を共にして学ぶ「アジア・サマー・プログラム」が2015年7月7日から7月28日まで、坂戸キャンパスと城西国際大学の東金、安房キャンパスで行われ、9カ国約150人の学生が参加しました。

アジア・サマー・プログラムは、アジア地域をけん引する人材の育成を目的に、本学を含む5大学が連携して、2012年にスタートしました。同年のペトラ・クリスチャン大学(インドネシア)、2013年の東西大学校(韓国)、2014年のベルリス大学(マレーシア)に続き、今年の本学がホスト役を務めました。日本、バングラディシュ、中国、インドネシア、韓国、リトアニア、マレーシア、フィリピン、タイの全14大学の学生ら約150人が寝食を共にしました。

初日の7日、東金キャンパスで行われたオープニングセレモニーでは、水田宗子理事長が「ここでの友情が、将来アジアで活躍する皆さんにとって、大切な財産になるはずですよ」と挨拶。和太鼓や三味線の演奏で一行を歓迎しました。

本学には6カ国からの36人と本学と城西国際大学からの6人の

計42人が参加しました。毎日2講座ずつ、英語で行われた講義を受けました。参加者たちは、講義の後、県内の企業見学やうちわ作り、茶道や華道、着物の着付け、座禅など、日本の文化を体験しました。

本プログラムはこれまで、英語による集中的な多文化教育の場として成果を上げてきました。他国の学生と寝食を共にする中で、異なる文化・価値観への理解が深まり、国際感覚を持った人材の育成につながっています。



閉会式後、別れを惜しんで記念撮影に納まる参加者たち

コンビニ新規オープン

2015.9.24

第1食堂棟2階に「セブン-イレブン」

第1食堂棟2階のラウンジの南西部分にコンビニエンスストア「セブン-イレブン」がオープンしました=写真。4月の新食堂「JUカフェ」のオープンに続く、創立50周年を記念したキャンパス整備事業の一環で、キャンパス外に出なくてもコンビニエンスストアが利用できるようになりました。

新しい「セブン-イレブン」は約100平方メートル。JUカフェと同じく、学校・企業等におけるフードサービスなどを幅広く手がける「エムサービス」(東京都港区)が運営しています。エムサービスによると、コンビニエンスストアがキャンパス内にある大学は増えているものの、まだまだ少ないといいます。キャンパス内オープンについて「学生、教職員の皆様の利便性が向上するほか、留学生にも便利なセブン銀行ATM等きめ細かなサービスも充実しております」と説明しています。

なお、正門前の「セブン-イレブン」は引き続き、営業しています。



クリストフ・マルケ氏講演会 2015.7.17

「フランスで賞賛された明治の風刺画家 河鍋暁斎」

東京紀尾井町キャンパスで2015年7月17日、特別講演会「フランスで賞賛された明治の風刺画家 河鍋暁斎」を開催しました。創立50周年を記念した特別講演会の一環。クリストフ・マルケ氏日仏会館・日本研究センター所長が講師をつとめ、学生、教職員のほか「暁斎ファン」ら約160人が聴き入りました。

河鍋暁斎(1821~1889年)は、幕末から明治にかけて活躍した異端の画家で、多くの戯画や風刺画を残しています。自らを「画鬼」と称し、その筆力・写生力は群を抜いていましたが、近年まで日本の美術史の中では忘れられた存在でした。しかし、欧州では19世紀末に日本の代表的な画家として北斎に次いで賞賛されていました。

マルケ氏は、日本近世・近代美術史と出版文化史が専門で、フランスでは芳中、北斎、歌麿、暁斎など数多くの江戸・明治の画譜の翻訳と復刻を出版。暁斎の遺作「暁斎百鬼画談」を仏訳・復刻しました。

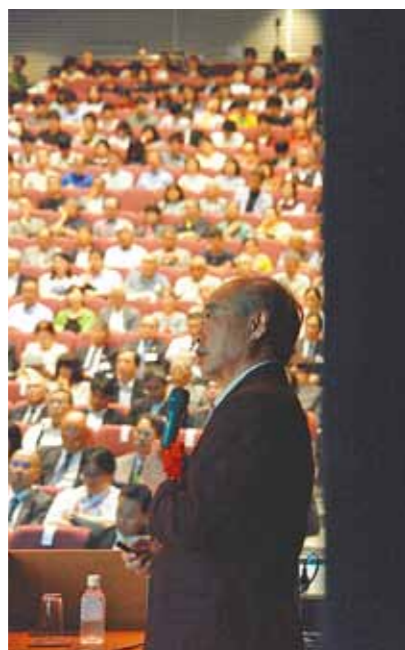
マルケ氏は、フランスを中心に美術館、博物館などを現地調査、「暁斎の足跡」を追い求めてきました。その際に写しとったスライドを駆使しながら「暁斎はいつ、なぜフランスで有名になったか」について言及されました=写真。



ニュース 50周年を彩るさまざまなイベント

小林誠氏講演会 2015.7.9

「反物質—素粒子から宇宙まで—」
ノーベル賞授賞式でのエピソードも披露



講演する小林氏

水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズの一環として2015年7月9日、ノーベル物理学賞受賞者の小林誠・日本学術振興会学術システム研究センター所長を招いた講演会「反物質—素粒子から宇宙まで—」を清光ホールで開催しました。

小林氏は1944年、愛知県生まれ。素粒子の世界に存在する「破れ」と呼ばれる非対称性の理論化に取り組んだ功績で、2008年、益川敏英・名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長や南部陽



小林氏を囲んで記念撮影

一郎・米国シカゴ大学名誉教授とともにノーベル物理学賞を受賞しました。

小林氏は講演で、粒子から出来る物質の構造の説明を手始めに粒子に対する反粒子の概念とその発見の歴史に触れ、ノーベル賞の対象となった「CP対称性の破れ」を説明する理論を解説されました。また宇宙の始まりのビッグバンにも言及。高温、高密度の宇宙の始まりでは粒子と反粒子が共存しているが、冷えるにしたがって反粒子がなくなって粒子だけの宇宙になるとして、「我々のモデルでは(宇宙の進化は)説明できない。未知の破れのメカニズムが存在するのではないか」と今後の研究の方向性を示されました。

講演に引き続き、元文部科学省事務次官で本学大学院センター長の小野元之理事とのミニ対談も行われ、小林氏はノーベル賞授賞式でのエピソードも披露。日本の基礎研究の将来について「若い人の人口が減ってきている。その分、頑張らないと高い日本の研究水準は維持できないのではないか。目の前の自分のやっていることを信じてやってほしい」と結ばれました。

鈴木敏夫氏講演会 2015.7.10

「日本から世界に広がるアニメ:
芸術、技術、プロダクション」

スタジオジブリ代表取締役プロデューサー、鈴木敏夫氏による講演会「日本から世界に広がるアニメ:芸術、技術、プロダクション」が2015年7月10日、東京紀尾井町キャンパスで開かれました。水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズの一環。

鈴木氏は、高畑勲、宮崎駿作品をはじめとするジブリ作品をプロデューサーとして支えてきました。主な作品に「もののけ姫」「千と千尋の神隠し」「崖の上のポニョ」「風立ちぬ」「かぐや姫の物語」などがあります。

本学の日本・アジア映像研究センター長である水田リビット亮・南カリフォルニア大学映像芸術学部教授がインタビュアーとなった講

演で「企画会議は一度もやったことがなくて、日常の会話や雑談の中から企画が生まれてくる」と語り、「風の谷のナウシカ」や「ハウルの動く城」「崖の上のポニョ」などの創作秘話も披露しました=写真。



今後の活動については、引退を表明した宮崎監督が、三鷹の森ジブリ美術館で上映する短編アニメ「毛虫のボロ」を3Dで制作していることを明らかにし、「スピルバーグやルカスが新しい映画の潮流をつくったが、新しい映画が期待されている。宮崎は3Dでそれをやろうとしている。やはりすごいと思う」などと語りました。

米倉弘昌氏講演会 2015.10.1

「民間の力で日本経済の再生・復活を
～世界の中で成長し続ける」

日本経済団体連合会名誉会長の米倉弘昌・住友化学相談役を招いた講演会「民間の力で日本経済の再生・復活を～世界の中で成長し続ける」が2015年10月1日、東京紀尾井町キャンパスで開かれました。創立50周年記念事業の水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズの一環で、本学は講演会を記念して米倉弘昌氏に名誉博士号を贈りました。



講演する米倉氏

米倉氏は1937年、兵庫県神戸市生まれ。1960年、住友化学工業(現住友化学)入社。1965年、米デューク大学経済学博士課程修了。2000年、住友化学代表取締役社長就任。2009年、同会長に就任し、2010年から4年間、第12代の日本経団連の会長を務めました。

名誉博士号贈呈に先立ち、水田理事長は挨拶で、ハンガリー大使館内に設立されたハンガリー文化センターや本学の日中連携

日本・スロヴェニア シンポジウム開催 2015.6.22

「女性作家と女性映画監督:
その歴史的意義」

東京紀尾井町キャンパスで2015年6月22日、「城西 日本・スロヴェニア シンポジウム『女性作家と女性映画監督:その歴史的意義』」が開催されました。創立50周年を記念したシンポジウムで、駐日スロヴェニア大使館と城西国際大学メディア学部、ジェンダー・女性学研究所が共催しました。

本学は、駐日スロヴェニア大使館のヘレナ・ドルノウシェク・ゾルコ大使の支援によって、スロヴェニアの大学では初となる学術交流協定をノヴァ・ゴリツァ大学と結びました。女性であるゾルコ大使はジェンダー問題についても関心が高く、女性学・ジェンダー研究の充実



名誉博士号を受けた米倉氏

大学院、アイルランドのリムリック大学との学術交流協定などを挙げ、「グローバル教育に力を入れている城西大学にとって、かけがえのない支援をいただいた。心から感謝の意を込めて名誉博士号を贈呈させていただきたい」と述べました。

講演で、米倉氏は「日本経済の再生と持続的な成長を実現していくためには、イノベーションの加速と海外の活力を取り込むことが必要」と指摘し、「国を挙げての取り組みが、日本経済の本格的な復活につながるかどうかは、我が国の人材の力」と述べ、人材育成の必要性を強調しました。最後に米倉氏はホールや大教室で聴講する約250人の本学生に向けて「皆さんには、高い志をもって、失敗を恐れず、いろいろなことに挑戦し、自分自身を磨いていただきたい」と呼びかけました。

をはかる本学との交流によって、今回のシンポジウムが実現しました。大戦中はナチスの収容所、戦後はユーゴスラビアで投獄されながら人権のために闘ったスロヴェニアの女性、アンゲラ・ヴォデア(1892～1985年)についてのドキュメンタリー映画「隠された記憶」(2009年)などをめぐって、映画や文学、フェミニズムの歴史的意義について討議しました。



参加者全員によるパネルディスカッション

韓南大学から名誉博士号

2015.8.21

両大学間の人材交流・友好推進を評価



水田宗子理事長は2015年8月21日、韓国の韓南大学から名誉博士号を授与されました＝写真。本学は09年に韓南大学と学術交流協定を締結、交換留学や国際文化研修などを中心に活発に交流。また、12年には、城西国際大学創立20周年を記念してキャンパス内に設立した「高円宮殿下記念スポーツパーク」で高円宮妃殿下をお招きして韓南大学とのサッカー国際親善試合を行いました。こうした両大学間の人材交流・友好の推進が評価されました。

授与式は韓南大学で行われ、金炯泰総長(写真右)から名誉博士号を授与された水田理事長は「韓南大学は韓国の高等教育の中心を占める高名な大学であり、みなさまの仲間に加えていただいたことを、大変うれしく思う。日韓の友好的な協力関係に貢献できる人材育成に全力を挙げたい」と述べた。授与式の後、両大学の学生によるサッカー国際親善試合が行われました。

吉野家と包括協定調印

2015.7.23

実践的講義とディスカッションで進路選択に幅を

本学は2015年7月23日、傘下に牛丼チェーン店の吉野家やセルフうどんチェーン店のはなまるなどを持つ株式会社吉野家ホールディングス(東京都北区:河村泰貴代表取締役社長、以下吉野家HD)と、人材育成や共同企画の推進などを目的に連携協力に関する包括協定を調印しました＝写真。フードサービス業界の企業人による実践的な講義や企業人とのディスカッションによって、フードサービス業界への理解を深め、進路選択の幅を広げることなどが狙いです。今後は、インターンシップの実施、寄付講座の開講、留学生を対象にした就職説明会などを展開していきます。

協定調印に先行する形で、城西国際大学の経営情報学研究所の院生らを対象にした吉野家HDによる連携講座が5月から7

伝記出版

2015.8

「水田三喜男伝 寒椿」

創立者の水田三喜男先生の伝記「水田三喜男伝 寒椿」(2500円+税)＝写真＝が、城西大学出版会から上梓されました。創立50周年記念事業の一環で、筆者は、元毎日新聞政治部記者で最後の水田番記者だった鈴木健二・城西国際大学客員教授。ウソをつかない、人の悪口を言わない、そんな稀有な政治家の素顔を豊富なエピソードで明らかにしています。

大蔵大臣と党政調会長を各7回務め、「財政の水田」として名を馳せた先生が、政治家を目指した原点は敗戦でした。「無謀な戦争で国土が荒廃し、人材が失われ、国民の気力がなえているのを見て『これはいかん』と日本の再建を真剣に考えた」(本書より)。1971年のニクソン・ショックから変動相場制への移行という通貨戦争は、最後の蔵相として迎えました。先生は、国内の非難に耐え、「憎まれ役」の蔵相を誠心誠意務めました。

教育者として原点は、地元の小学校で代用教員をしたこと。「政治家としての水田は、いずれ時が経つにつれて忘れ去られるだろう。水田は政治家である以上に立派な教育者でありたい」。こんな先生の言葉が紹介されています。



月にかけて行われました。紀尾井町キャンパスで行われた調印式で、水田理事長は「学生にとって満足度の高い講座で、素晴らしい経験だったと思います。これからも

いろいろな事業を進めていただければ大変うれしく思います」と挨拶。河村社長は「ぜひ学生の皆さまに飲食業の実態、本当の姿を知ってもらい、それが、私どもが目指している飲食業の地位向上につながればと思います」と応えました。



シリーズ

先輩訪問

各界で活躍する卒業生を紹介する「先輩訪問」。今回は新潟県内で飲食店23店舗を展開する「しおさいフーズ」の取締役人材育成部長・渡辺睦さん(40)を新潟市内のお店に訪ねました。

「挨拶」を大事に。チャンスをつかみ夢叶えて

しおさいフーズ取締役人材育成部長 渡辺 睦さん (1998年経済学部卒)



——もともとお父様が飲食店を経営されていたと聞きました。

「父は32年前に、全国フランチャイズの『村さ来』を新潟で手がけたんです。もの心ついたころから、大変ながら明るく立ち働く両親の姿を見て、仕事の素晴らしさを教えてもらった気がします。飲食店の仕事に進んだのは、自然の流れだったんでしょうね。城西では経済学部で経営学を学び、就職したのが一流料亭。そこで仲居として接客のイロハを学びました。着付けや茶道、礼儀作法などのスキルアップにも励みました」

——どんな学生生活でしたか。

「はじめではない学生で、もっと勉強をするべきだったと後悔しています。積極的に取り組んだといえば、3、4年時のゼミ(マーケティング)の懇親会の幹事くらいで(笑)。しかし、楽しく友人と遊ぶことを通して、財産としての友ができたと思っています」

——現在の会社に入った経緯は。

「28歳の時に、父から『日本料理店の女将が辞めるので、帰って来い』と。それまでの責任なく楽しくやる仕事からスタッフを引っ張ってチームで協力してやる仕事への変化で、私にとっては大きな転機になりました。最初は失敗ばかりで、よくお客さまに叱られました。失敗で悩んでいるときに、ある先輩から『お客さまの気持ちになって働いてみなさいよ』と言われ、自分の動作を相手から求められる動きに変えました。そうすると、お客さまのクレームが減るどころか、お客さまの喜びや感動も共有できるようになりました。『相手の立場に立って判断すること』。それは、昨年に立ち上げた社員向けの育成部門の仕事にも役立っています。教えてくれた先輩に感謝しています」

——社員育成で心がけていることは何ですか。

「『ひと手間を』というのを、スタッフに強調しています。そのひと手間が、幸せの想像と創造につながると。お客さまの会食や

会食をよく見てイメージを膨らませ、お客さまに喜んでもらえるもう1個の幸せをクリエイトする。調理人も器や盛り付けに配慮する。それが『おもてなし』の心につながっていくと思います」

——好きな言葉を教えてください。

「誰にも負けない努力をする」という京セラ名誉会長、稲森和夫さんの言葉が好きです。初めて人の上に立つ立場になって悩んでいるときに、この言葉を知って叱られた気持ちになりました。誰よりも早く出勤して掃除、準備、常に自分から挨拶するなど、当たり前のことを当たり前に行うことで、不思議と周囲が協力してくれるようになりました」

——後輩へメッセージをお願いします。

「『挨拶』をぜひ大事にしてほしい。就活中の学生さんと話す機会がありますが、挨拶がズバ抜けて素敵なのは企業側が放っておきません。逆を言ったら、どんなに明確な目標とやる気を持っていても、挨拶が下手で損をしている学生もいるのではないかと思います。挨拶は人の心を大きく動かします。たくさん人の心を動かして、チャンスをつかんで夢を叶えてほしいと思います」

■しおさいフーズ

1983年設立。「村さ来」8店舗のほか、和食、焼き肉、お好み焼き、イタリアンなど23店舗を展開。パート、アルバイト含む社員数は520人。平均年齢32.8歳。企業理念は「全従業員の物心両面の幸福を追求するとともに、食を通じて『感謝』と『思いやり』の心を持ち、地域の発展に貢献する」。渡辺さんは利酒師とソムリエの資格も持ち、趣味はお酒とか。会社の所在地は、〒950-0986 新潟市中央区神道寺南1-15-12(TEL:025-245-3595)。

ニュース

教員懇談会 2015.8.29

北海道・岐阜・愛知の先生40人が参加

本学出身高校教員と本学教員との懇談会が2015年8月29日、経営学部棟のプレゼンテーションルームで開かれました。懇談会には、北は北海道、南は岐阜、愛知県の高校で教鞭を執る先生約40人が参加しました。冒頭あいさつで、水田宗子理事長は「皆さんがそれぞれの場所でどれだけ大切な力になっているか。これからよろしくお願ひしたい」と感謝の言葉を述べ、今年が最終年度になる七つの中期目標に触れたうえで「次の5カ年計画の出版にあたり、先生方からご意見をいただきたい」と述べました＝写真。

本学の国際教育活動や入試状況の報告があった後、3人の学生によって留学体験や社会・地域貢献活動の発表があり、参加者から大きな拍手を受けました。懇談では、高校教員の方々か



ら「野球、剣道、柔道などスポーツの冠大会を行ってほしい」「大学教員による高校への出前授業も検討してほしい」「スポーツで優秀な生徒や障害を持つ選手を積極的にリクルートしてほしい」などの意見や要望が出されました。

お知らせ

国際文化政策コース新設

現代政策学部が来年度から計5コースに

現代政策学部に来年度から国際文化政策コースが新設されます。同学部のコースは、これまでの▽公共政策コース▽医療福祉経済コース▽ビジネス法コース▽地域イノベーションコース——に加えて計5コースになります。

国際文化政策コースは、英語での授業を重視。英語を学ぶとともに英語で世界の文化と社会を学び、討議、思考、発表力の体得をめざします。また、リーダーの育成、特に女性リーダーの育成をめざし、女性育成のサポート体制を強化するとともに、海外との交流イベントも数多く用意してネットワーク作りをサポートします。さらに、海外姉妹校などで留学、インターンシップ、研究プロジェクトへの参加を通して、異文化理解と異文化コミュニケーションを実体験することができます。

総合グラウンドの走路改修

さわやかな青色のウレタンチップ舗装に

総合グラウンドのトラックが改修され、さわやかな青色の走路に生まれ変わりました。公認一周400m、6コースに敷かれていた走路はこれまで、赤色（レンガ色）の合成ゴムシート（厚さ14mm）でしたが、老朽化が進んでいました。

整備工事は8月初めから始まり、10月初めに終了。目にも鮮やかな青色のウレタンチップ舗装（13～18mm）の走路になりました。今回の青色は、水田宗子理事長の意向で決まったといいます。

赤色は興奮するのに対し、青色は呼吸、脈拍、瞬きの数が減少しリラックスして集中力が高まるとされます。このため、青色のトラックには「鎮静効果」があるため、ランナーはリラックスすることができ、また凝視力が向上するため、まっすぐ走れるようになるそうです。レンガ色より青色の方が、記録のバラつきが少なくなったとの研究報告もあり、最近では青色のトラックが増えています。

また、以前はテニスコートなどだったグラウンド南側の一角は、人工芝を敷いた広場と駐車場に整備されました。



新しく生まれ変わったトラック

展覧会

森洋子さん挿絵原画展 2015.7.14～8.2

水田理事長の詩集出版を記念して開催

水田宗子理事長の詩集「東京のサバス」（思潮社）の出版を記念して、詩に寄せた造形作家・絵本作家の森洋子さんの挿絵原画展が東京紀尾井町キャンパス3号棟の水田美術館ギャラリーで2015年7月14日から8月2日まで開かれました＝写真。創立50周年の記念事業の一環。

「東京のサバス」は、「サンタバーバラの夏休み」「アムステルダムの結婚式」に続く3部作の完結編。幾世代にもわたって世界各地で暮らすファミリーの物語をナラティブな手法でダイナミックに描いています。スウェーデン政府が、生命の尊厳を表現する東アジアの詩人に贈る「チカダ賞」の受賞（2013年12月）後、初の詩集刊行となりました。今回の原画展では、この3部作に加え、詩集「青い藻の海」の計4冊の挿絵を担当した森さんの全作品、挿絵原画45点など計50点が展示されました。鉛筆の素描と写真コラージュによって様々な記憶が折り重なるようなイメージの作品で、来場者は、子どもの空想、生と死、時間、記憶といった詩と響き合う作品世

界を堪能しました。

7月14日のオープニングセレモニーで、水田理事長は「詩集が出来て、森さんの挿絵が添えられると世界が広がる。今日は、その挿絵の原画を味わってください」と挨拶。これに応じて森さんは「詩は言葉によって完成された世界で、そこに絵を付けるのは難問だったが、最後まで自由に描かせていただいた」と述べました。



シリーズ

浮世絵

～水田コレクションより～

水田美術館所蔵の浮世絵コレクションは、城西大学創業者・水田三喜男により収集されました。浮世絵からは美しさと共に、何ともいえない歴史の懐かしさを感じ取れます。当時の人物や風俗などが、生き生き描かれている作品をシリーズで紹介していきます。

『化粧美人図』 葛飾北斎

筆と柄鏡を持ち、しどけない姿で化粧する女性が描かれる。襟や裾、帯の縮れたような輪郭線は、画業の半ば以降、顕著になる北斎独特の表現。襦袢の緋色が白肌をひきたて、膝に置かれた袋や衝立の葡萄図などが細部にまで丁寧に描かれている。寛政（1789～1801年）後期に創出した、瓜実顔で細目、なで肩、細身の美人像を脱し、晩年のより面

長で切れ長の目の鋭角的な美人像へと続く過度的な画風である。

この「化粧美人図」のほか、水田美術館所蔵の東洲斎写楽の全9点などを特別公開する創立50周年記念「水田コレクション 精華展」が、記念式典の行われる10月31日から11月3日まで開かれる。

絹本着色（95.7mm×33.1mm）／文化（1804～18年）中期



シリーズ

学生瓦版

城西大学広報委員会のメンバーが学内外で活躍する団体、個人を紹介する学生瓦版。今回もワイド版でお送りします。

城西生と留学生が多様な活動

JIC日本人学生代表 藤原慧さん(薬学部医療栄養学科4年)

「言語を学びたいなら、その言語を話す人たちと交流することが上達の近道です」。そう話すのは、JIC(国際インターナショナルサークル)の日本人学生代表の藤原慧さん(薬学部医療栄養学科4年)だ。

現在のメンバーは、留学経験がある▽TOEICの点数を上げたい▽日常的な英語を話したい▽英語以外の言語に興味がある——など国際的な交流をしたい城西生と留学生合わせて約40人。留学生は、ハンガリーやポーランド、チェコ、スロバキア、中国、韓国、マレーシアなどさまざまな国から来ている。

活動は、英会話の練習や旅行のほか、文化祭や国際交流会への参加などと多岐にわたる。藤原さんは「サークルでは教科書とは違った生の英語や流行の言葉を聞ける。いろんな言語が飛び交っているのが自然と言葉を覚える」とサークルの魅力

を話してくれた。毎週水曜日、清光会館の4階に集まる。藤原さんは「英語が苦手な人や4年生で入りづらいと思う方もいるかも知れないが、気軽に参加してください」と呼びかけている。ツイッターは「@JosaiJic」。取材:丹波瞭(経済学部4年)



メンバーによる浅草寺見学

保健センター 学生の心身・健康をサポート

清光会館の1階にある「保健センター」=写真下=は、学生や教職員を対象にさまざまな健康サポートを行っている。保健センターには現在、3人の看護師さんがいて、学生の健康管理やけがの応急手当、学生相談室の対応も行っている=写真右。毎週水曜日は内科の医師、毎月第二土曜日は神経内科



の医師が来るので、健康相談やメンタル相談もできる。

保健センターを利用する学生は少ないと思っていたが、昨年度は、私たちの想像をはるかに超える延べ4244人もの学生が利用した。なかでも健康診断の二次検査がある4月、合宿前の健康診断がある7月が多いという。

「一人暮らしの学生が多いので、食生活には気を付けてほしい。生活習慣病になることもあるので、若いうちから健康に関心を持ってほしい」。こんなアドバイスをいただいた。保健センターの利用は、午前9時から午後6時半まで。いつでも気軽に利用してほしいそうだ。

取材:中原雅人(経営学部4年)、宮本祐輔(経済学部2年)



全学応援団 新入生6人を迎えて応援盛り上げ

「人数の増えた応援団から城西大学を盛り上げていきたい」。これまでの2年間、一人で全学応援団を支えてきた第46代団長代行の齋藤優輝さん(現代政策学部3年)は、言葉に力をこめる。新学期から、6人もの新メンバーを迎えて現在は7人で活動している。紅一点は、経営学部1年の増田裕美さんだ。普段は、本番に向けての学歌斉唱や声出し、筋トレといった練習を行っている。加えて礼儀作法や上下関係も大切にしているという。

新団員たちは「練習の成果を本番の試合での応援で発揮して、大勢の人たちに誉められる。それに加えて、選手やその家族とともに喜ぶことがやりがいになっている。尊敬している齋藤團長代行や仲間たちと普段は和気藹々と、しかし練習では真剣に向き合って成長していきたい」と明るく話してくれた。

齋藤團長代行は「一人で頑張ってきた甲斐があった。努力



待望の新メンバーを加えた全学応援団

は必ず実る。自分を信じて頑張してほしい」と、城西大生にメッセージをくれた。

取材:丹波瞭(経済学部4年)、戸澤敦子(経営学部4年)、松本拓郎(現代政策学部4年)、阿部匠(現代政策学部2年)

積極的な献血活動を展開

現代政策学部 学生会会長 松葉爽さん(現代政策学部2年)

現代政策学部の学生会会長は、経済システム学科2年の松葉爽さんが務める。「私たち2年生が中心となって、学生の手助けをしたい」と意気込んでいる。

現代政策学部学生会は、2年生4人、4年生2人の計6人と学生会の中で最も人数が少ない。毎週月曜日の定例会では、主に学内行事計画と献血の広報活動の話し合いをしているという。

学内行事の話し合いでは、学部を盛り上げようとさまざまなアイデアを練っている。中でも今年初の試みであるゼミ対抗バドミントン大会に力を入れているようだ。

一方、献血の広報活動では学生たちに献血への協力を呼びかけ、毎月来る献血バスのサポートもしている。今年からは学外へ活動を広げるために、学生献血推進連盟に加入したという。

松葉さんは「これからは、もっと献血活動に力を入れたい。献血に興味があり、ボランティアをしてみたいという学生がいた

ら是非、協力してほしい」と話している。我々も積極的に協力しようではないか。

取材:東條梨沙(経営学部2年)、齋藤宙生(現代政策学部2年)



「献血に力を入れたい」と話す松葉さん

図書館だより

図書館地域アドバイザーミニ講演会 ライブラリーラウンジ第4回、第5回を開催

2015年6月17日、視聴覚室において図書館地域アドバイザーの馬場純一さんによるミニ講演会・第4回ライブラリーラウンジ「元企業面接官が教える、知って得する会社の取組内容」を開催し、32人が参加しました。現場で求められる人材、就職面接のときのポイントなどを製造部や品質管理部に勤務されたご自身の経験談を交えてお話しされました＝写真。

6月29日には、数学科の特別講演会のため来日されたカリフォルニア州立工芸大学教授の加藤五郎先生を講師にお迎えし、グループ学習室6Bで、第5回ライブラリーラウンジ「数学者が見るアメリカの学生」を開催し、22人が参加しました。参加者からの質問に加藤先生が回答するアットホームな雰囲気の中、アメリカの大学の進級・卒業の難しさや就職活動などについて、お話しいただきました。



著作権講演会を開催



2015年6月30日、18号館101教室において図書館主催著作権講演会「知っておこう著作権2015」を開催し、102人が参加しました。講師には、日本ユニ著作権センター著作権実務相談員の大亀哲郎氏をお迎えし、著作権の基本から引用のルールなど広く事例を交えながらお話しいただきました＝写真。薬学研究科の大学院生は論文

作成法特論の授業として参加したこともあり、質疑応答では実際に論文執筆で判断に迷っていることなどさまざまな質問が出ました。講演後のアンケートでは「知っているつもりでしたが、適切な理解ではないことがわかった」「今後の論文作成にとっても役に立つ講演だった」などの感想があり、有意義な講演会となりました。

日高市立図書館主催ビブリオバトルに参加

2015年8月2日、日高市立図書館において記念すべき第1回目のビブリオバトル「図書館ビブリオバトル2015夏の陣」が開催され、第1部では本学の学生3人（経済学部4年・嘉藤敏生さん、経営学部3年・奥富将司さん、現代政策学部3年・横山雄紀さん）が招待を受けて発表し、第2部では日高市立武蔵台中学校の生徒3人による発表がありました。それぞれの熱い戦いの結果、第1部では嘉藤さんが発表した『伝え方が9割』、第2部では1年生の金中さんが発表した『名のないシヤ』がチャンプ本に選ばれました。発表後の意見交換会では、中学生に人気の本の話や、中学生からは大学生のパフォーマンスが素晴らし

かったなどの意見があり、本が好きという共通の話題で盛り上がり、楽しい時間となりました＝写真。今回の開催は、昨年度実施した相互協力提携公共図書館6館との合同研修会において本学のビブリオバトルを紹介したことによるものであり、地域との連携事業が新たな読書推進活動を生み出すことにつながりました。



ニュース

化学科コロキウム開催

2015.5.29

「地球環境の化学的特徴と変化」

理学部化学科の第291回化学科コロキウムは2015年5月29日、国際環境研究協会環境研究総合推進費プログラムオフィサーの坂東博先生をお迎えして「地球環境の化学的特徴と変化」のテーマで開催されました＝写真。



冒頭、坂東先生

は地球の化学組成についての研究例を取り上げ、「ここで示された組成の元になるものは何か」と問いかけました。地球が小惑星帯などと同様な微惑星の集合によって出来たと考えられるところから、隕石の組成がその基礎になっていることを説明されました。さらにこの組成は全体としては金星、火星とも違わないのに、この2つの惑星とは大気組成がまるで違っているというデータを示し、地球の大気環境が生物活動による微妙なバランスの上に成り立っていることを説き、地球環境保持が難しい問題であることを明らかにされました。

講演後には、地上の生命活動に欠かせないオゾン層に関連して、その吸収帯や液体酸素が青く見える原因などに関する質問がありました。

エリア紹介

鶴ヶ島市

人と地域を結ぶ 「鶴ヶ島産業まつり」

今年で30回目を迎える「鶴ヶ島産業まつり」。毎年、多くの人でにぎわうこの秋の祭典は、市の特産品などを展示・販売し、市の産業を広くPRするとともに、ステージイベントなどが行われ、子どもから大人まで楽しめるお祭りです。

地元事業者による各種出店が数多く並び、それぞれ自慢の逸品を味わうことができます＝写真下。また、国内交流の場として、毎年、清里町（北海道）、十和田市（青森県）、飯綱町



（長野県）が特産物の販売を行います。

中でも、注目は会場内で同時開催される「サフランフェスタ」。市が産・学・官・民の協働事業として特産化を進めている「鶴ヶ島サフラン」

＝写真右＝とそのサフランを使った加工品を販売します。鶴ヶ島でサフランの栽培は意外かもしれませんが、かつて50年ほど前は、高倉地域で栽培が行われ、健康管理などに役立てられていました。ぜひ、この機会に「鶴ヶ島サフラン」を味わってみてください。開催日時は、11月



14日（土）10時～16時、15日（日）10時～16時。

なお、「サフランフェスタ」は15日のみ開催。

毛呂山町

五感で楽しむ 毛呂山町の収穫祭

毛呂山町では毎年11月に商工農が集まり、旬の特産品やお得な商品が並ぶ「産業まつり」を開催します。今年は11月14日（土）、15日（日）の2日間。

特設ステージでは、お笑い芸人の「だいまじん」の司会で、地元チームのチアリーディングや激辛カレーの早食い対決など、さまざまなイベン

トを開催します＝写真。会場内では地元商店のB級グルメや、宮城県産の海産物も出店し、毎年大いににぎわいます。

また、11月15日の「毛呂山町観光大使委嘱状交付式」には、毛呂山町出身のフォークデュオ「サスケ」も出席し、ミニコンサートを行います。産業まつりならではのアットホームなコンサートは必見です。

会場の毛呂山総合公園周辺は、ちょうど紅葉の見ごろを迎え、秋の里山の風景も楽しめます。駐車場には限りがあるので、東武越生線



武州長瀬駅、毛呂山町役場前などから出る無料シャトルバスをご利用ください。詳しくは、毛呂山町ホームページまたは毛呂山町役場産業振興課（☎049-295-2112 / 平日8:30～17:15）まで。

東武線沿線情報

和紙のふるさと小川町へは 東武東上線へ

「細川紙」が2014年11月、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。細川紙は、埼玉県比企郡小川町と東秩父村において、伝統的な製法と製作用具で作られてきた和紙です。小川町と東秩父村周辺で作られてきた小川和紙は、1200年以上の歴史があるとされています。その中でも細川紙は、強直で雅味に富んだ味わいがあり、現在では便箋や古文書補修用紙のほか、壁紙や照明のインテリアとしても使われています。手すき和紙作りを体験しに和紙のふるさと小川町へ是非おこしください＝写真。

また、11月28日（土）には、「細川紙」ユネスコ無形文化遺産記念ハイキングを実施します。東武東上線・武蔵嵐山駅東口で、9時～10時に受け付けをします。誰でも参加できる無料のイベントで、全行程約11キロ（約3時間）の初心者向けのハイキングです。サークル仲間やゼミ仲間、友人たち、恋人とともに是非ご参加ください。詳しい情報は、東武鉄道お客さまセンター（☎03-5962-0102 / 8:30～19:00、年末年始を除き年中無休）まで。



編集 / 学校法人城西大学 広報センター
発行 / 城西大学 総務部総務課
〒350-0295
埼玉県坂戸市けやき台1-1
Tel 049-271-7712
http://www.josai.ac.jp

2015年10月発行